

平成 30 年度事業・活動報告

特定非営利活動法人 旭川 NPO サポートセンター

【事業の成果】

平成 30 年度には、旭川ではこれまであまり経験したことがないような、地震と長期の停電に見舞われました。市内全域で電話が通じない、電気がつかない、マンションなどでは水道が使えないなど被害がありました。ここ数年各地で災害が発生しています。災害に備えることの重要性和、災害支援に多くのボランティアやNPOが取り組んでおり、NPO活動の重要性がますます高まってきていることを実感した年でもあります。ブラックアウト直後に開催した、「地域防災リーダー養成講座」ではこれまでになく、多くの市民の参加が有りました。

旭川市市民活動交流センターは第 2 期の指定管理 4 年目となりました。経年劣化により、ホールの床の損傷が激しく、2 月には全面補修を実施しました。その他、市民の皆様が気持ちよくご利用できるよう、施設の備品や設備の充実に努めました。例年通り、助成金セミナーの開催や、婚活支援の事業も実施することができました。他団体との共催や、他団体と実行委員会を組織するなどして、多様な事業展開をすることができました。

■事業名 (旭川市指定管理事業)

旭川市市民活動交流センター指定管理業務

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

【目的】

旭川市市民活動交流センターCoCoDeに関して、

- 1) 施設の使用承認／管理運営／維持管理
- 2) 市民活動団体の登録
- 3) 市民活動に関する情報収集・提供／相談・コーディネート／学習機会の提供／交流及び協働の促進
- 4) その他自主事業等



地域防災リーダー養成講座

【事業期間】

平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

【事業内容・事業成果・課題等】

1)施設の使用承認／管理運営／維持管理について

- ① 利用件数 4,260 件、利用者数 74,303 名、利用料金 8,724,020 円。
(前年度 利用件数 4,299 件、利用者数 72,568 名、利用料金 8,248,806 円)。
- ② 施設清掃業務、施設敷地内管理業務、点検等その他業務について所定通り実施。

2) 市民活動団体の登録について

- ① 市民活動情報サイト登録 313 件 (前年度 278 件)
- ② 市民活動交流センター登録 (団体) 439 件 (前年度 399 件)
- ③ 市民活動交流センター登録 (個人) 1 件 (前年度 1 件)

3) 市民活動に関する情報収集・提供

- ① CoCoDe 通信の発行～毎月 1,000 部

② 利用者ニーズ把握のため、4月と10月に指定管理者と利用者を代表する6名及びオブザーバーとして市担当課2名による利用者懇談会を実施。

③ **CoCoDe トークサロン 毎月1回 参加192名**

毎月様々なテーマでゲストを迎え、参加者と交流する場として開催。

4) **相談・コーディネート**

① **日常の相談・コーディネート～NPO 設立運営相談等。**

相談総数 115 件。(内訳：個人 9 件、市民活動団体 104 件、企業 2 件)。(前年度 113 件)

② **決算相談会 3/17 実施 参加5名**

税理士の佐藤はるみ先生を迎え、日常の会計業務で困ったことについての個別相談会を開いた。2 団体が参加した。

5) **学習機会の提供について**

① **知っておきたい著作権！ 9/02 実施 参加20名**

弁護士の酒井将平氏をお招きし、「知っておきたい著作権！」と題して、かかる座学とWSを実施した。広報による情報発信や、コンサート等の活動で著作権が問題になることも多い。本講座において基礎的な知識を身につけるとともに、まさに課題になっている事案について意見交換を行った。



② **地域防災リーダー養成講座全3回 10/11, 10/31, 11/14 参加161名**

オフィス及川防災プランニングの及川様を講師に全3回の地域防災リーダー養成講座。第1回目は今年度発生した豪雨や大規模停電時の経験や知恵をワールドカフェ形式で共有。第2回目は災害図上訓練、第3回目は避難所運営ゲームを実施した。

③ **資金獲得講座 2/13 参加15名**

市民活動を実施するにあたって資金の調達に悩みを抱える団体が多い。その資金調達の手段として助成金や補助金を活用することが考えられる。しかしながら、助成金申請書を書いたことがない、書いたことはあるが認められたことがない、そもそもどのような助成金があるか知らないという団体は多い。今回このような団体の課題を解決するため助成金申請のノウハウを伝える講座を開催した。

④ **消費税ポイントセミナー 3/17 参加18名**

税理士の佐藤はるみ先生を講師に、2019年10月に施行される消費税改正について、そのポイントを学んだ。

6) **交流及び協働の促進について**



① **北彩都ごみゼロ大作戦 4/22 参加115名**

北彩都地域を職場に持つ行政、NPO 団体、民間企業と周辺町内会の 19 団体、115 名で実施。15kg のゴミが収集された。本事業を通して地域交流が促進された。

② **CoCoDe キッズワールド 2018 5/5 参加2,025名**

今年で第7回目となったキッズワールド。市民活動団体やNPOが“市民の力で、子どもたちが遊べる・学べる・楽しめる空間を創ろう！”という開催趣旨のもと、子どもたちが安心して楽しめる体験(工作・演劇など)、学び・交流の場を提供した。



③ **キャンドルナイト in 旭川 2018 6/16 参加380名**

キャンドルを灯してスローな夜を楽しむエコイベント。電気を消してエコな時間を過ごすのが目的。ミュージックフェスタ(セカフザオ・旭川南高等学校吹奏楽部・和音アンサ

ンブルユニット) や蜜蝋キャンドル・エコバッグ作り、リサイクル市、天体観測を開催。CaféLafutto によるスローフードも販売した。

④ 秋の CoCoDe まつり 11/3 参加 1,500 名

毎年恒例の CoCoDe の秋のイベント。日頃、当センターを利用している市民活動団体や NPO 団体等が、ステージ・ブースで活動の成果を発表いたしました。ダンスやフリーマーケット・作品展示など幅広いジャンルが一堂に会し、盛りだくさんの 1 日となった。

⑤ CoCoDe クリスマスマーケット&キャンドルナイト in 旭川 12/15 参加 520 名

毎年恒例のクリスマスイベント。市内外で活動している手作り小物の作家が出品して雑貨を販売したほか、パン 7 店によるパンマルシェ、4 団体が出演したステージイベント、Workshop、屋外のアイスクャンドル点灯などひと足はやいクリスマス気分を楽しんでいただいた。



⑥ 雪あかり 2/2~2/3、2/6~2/11 実施 参加 253 名

市民手づくりのあさひかわ雪あかり。今年も旭川の冬を幻想的に雪あかりで心暖まるイベントとなった。

7) 自主事業等について

① 赤い糸をもう一度アゲイン婚活 8/11 参加 45 名

20 代~40 代のシングルファザー・マザー、離婚歴のある方および、再婚に理解のある方を対象とした婚活イベントです。アイスブレイク・お見合い回らずし・グループトーク・フリータイム・マッチングを行ない、6 組のカップルが成立しました。ケーキとドリンク付き。

- 事業名 (旭川市及び周辺 7 町委託事業)
 ファミリーサポートセンター
 ・上川中部こども緊急サポートネットワーク事業



■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

【目的】

旭川市より受託したファミリーサポートセンター「育児型」は子育ての援助を受けたい方と援助を行いたい方が会員になり、お互いに地域の中で助け合いながら子育てをする会員制の相互援助活動を行う。また 1 市 7 町から受託した「上川中部こども緊急さぼねっと」は宿泊を含め、臨時的・突発的なニーズに、予め登録している地域の人が子どもを預かる事業で、子どもを預かって欲しい人との橋渡しを行うことにより、地域の子育て支援・児童の福祉の向上を図ることを目的としている。



【事業期間】

平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

◎ファミリーサポートセンター「育児型」

- 1) 会員の募集、登録業務
- 2) ハローワーク、保育所、学童保育施設等に周知広報
出張事業説明会
日 時：H30 年 11 月 10 日(土) ①10:30～12:30 ②13:30～15:30
会 場：イオンモール旭川駅前 4 階
参加者：大人 11 名、子ども 7 名、スタッフ 6 名
- 3) 子育て支援者養成講座年 2 回実施（「上川中部子ども緊急さぼねっと」との合同養成講座）
（厚生労働省児童家庭局長より本年度からファミリー・サポートセンター事業実施については「子育て援助活動支援事業実施要綱」に基づき、講習カリキュラム 24 時間の子育て支援研修を修了した会員が活動を行うことが望ましいとの通達があった。）
日 程：前期／5 月 29 日.30 日.6 月 1 日.4 日.6 日.8 日
・ 後期／10 月 15 日.18 日.19 日.24 日.26 日.29 日
講座数：13 講座、27 時間
参加者：前期 25 名 ・ 後期 19 名
- 4) 依頼会員と提供会員の事前打ち合わせの調整
- 5) 依頼時の相互援助の連絡調整
- 6) 会員の交流・情報交換・意見交流会実施（上川中部子ども緊急さぼねっと合同研修）
「子どもの心肺蘇生法・AED の使い方」
日 時：H30 年 6 月 19 日(火) 10:00～12:00
場 所：旭川市市民活動交流センター CoCoDe ホール
講 師：田中 久子氏（日本赤十字社幼児安全法指導員）

参加者：17名

- 7) 関係機関等との情報交換、連携を図るための会議
- 8) サブリーダーの情報交換を行うサブリーダー会議実施
- 9) 提供会員のレベルアップ講習会実施（「上川中部こども緊急さぼねっと」合同研修）

「児童相談所ってどんなところ？」

日 時：H30年10月31日（木） 10:00～12:30

場 所：旭川市市民活動交流センターCoCoDe

講 師：幅 三平氏（旭川児童相談所）

参加者：33名

- 10) 月毎に市へ報告及び助成請求

- 11) 年1回通信発行

【事業成果・課題】

- 1) 会員数 依頼会員 1,161名
提供会員 201名
両方会員 57名
総会員数 1,419名
- 2) 依頼総件数 2,404件（キャンセル 216件）
援助総件数 2,188件（H29年度 4,516件）
 - ① 保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り 565件
 - ② 保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり 551件
 - ③ 学童の登校前の預かり及び送り 271件
 - ④ 学童の放課後の迎え及び帰宅後の預かり 37件
 - ⑤ 学童保育前の預かり及び送り 112件
 - ⑥ 学童保育の迎え及び帰宅後の預かり 208件
 - ⑦ 子供の習い事等の場合の援助 343件
 - ⑧ 保育所・学校等の休み時の援助 59件
 - ⑨ 冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の場合の援助 3件
 - ⑩ 保護者等の外出の場合の援助 36件
 - ⑬ その他 3件

◎上川中部こども緊急さぼねっと

【事業内容】

- 1) 利用会員拡大のため、1市7町及びハローワーク、保育所、学童保育施設等に周知広報
 - ①出張事業説明会（ファミリーサポートセンター「育児型」合同説明会）
 - ②旭川市事業「うぶごえの贈りもの」で出産祝いとして絵本のプレゼントがある。絵本配布時ファミリーサポートセンターのパフレットも一緒に配布
- 2) スタッフ会員登録のための子育て支援者養成講座年回実施（ファミリーサポートセンター「育児型」合同）
- 3) スタッフ会員に年2回レベルアップ講習会実施（ファミリーサポートセンターと合同）
 - ①「子どもの心肺蘇生法・AEDの使い方」
 - ②「児童相談所ってどんなところ？」

- 4) 利用会員入会手続及びスタッフ会員更新手続業務
- 5) 依頼時の利用会員とスタッフ会員の連絡調
- 6) 関係機関等との情報交換、連携を図るための会議
- 7) 月毎に市へ報告及び助成申請
- 8) 年1回さぼねっと通信「育輪（いくわ）」発行
- 9) スタッフ交流会（東神楽町5月18日開催）
- 10) 月1回「すりーAの会」実施（開催日不定）

開催：8回（研修会、意見交流会等）

参加者：延33名

【事業成果・課題等】

- | | | | |
|----------|-------------|---------------|---------------------------|
| 1) 会員数 | 利用会員 | 1,320名 | |
| | スタッフ会員 | 176名 | |
| | <u>総会員数</u> | <u>1,496名</u> | |
| 2) 依頼総件数 | | 1,556件 | |
| | コーディネート件数 | 1,340件 | （前年度 1,602件） |
| | 病気預かり | 289件 | |
| | 宿泊 | 26件 | |
| | 元気預かり | 959件 | |
| | 送迎 | 66件 | |
| | キャンセル | 216件 | （コーディネート後当日又は翌朝に連絡のあったもの） |

ファミリーサポートセンター「育児型」援助総件数は前年度に比べて半数に近い48%減であった。例えば、3人の保育園児を朝夕送迎していたのが終了したり、小学校に入学した子どもが放課後児童クラブに移行したり、転勤する世帯があったりして毎年毎年利用が増加するという事にはならないと確認。また30年度からは親が就業している、していないにかかわらず保育園の一時預かりの利用ができるようになり、また幼稚園での延長保育もあり、子育て世帯にとっての子育て支援・援助は選択の幅が非常に広がり、子育てしやすい環境になってきていると思われる。一方で、おけいこ事や塾通いなど、提供会員の自家用車での送迎依頼が相変わらず増加しており要望に応えることのできないケースもある。気軽にタクシー代わりに利用されているのではと疑問を感じる。

上川中部こども緊急さぼねっとの利用は昨年度より15%減である。今まで病後児の預かりはあったが、30年度から一時的ではあるが保育施設で預かりを行う病児保育サービスが始まった。予約制ではあるが、キャンセル待ちをしてでも緊急さぼねっとから変更するケースもあり自ずとこちらのキャンセルが多くなっていく。利用可能人数は3名と少ないが利用料金も安価であるため利用希望者は多くなるとと思われる。

事業の周知について、ファミリーサポートセンターのパンフレットをいち早く母親の元に届けたいと「うぶごえの贈りもの」の中に入れたが、あまり効果がなかった。次年度は乳幼児健診時に案内の機会を得ることを行政に訴えていきたいと思っている。

また、これからもファミリーサポートセンター事業が子育て世代にお守りがわりになることを伝え、登録することを促していきたい。

緊急さぼねっとスタッフによる「すりーAの会」は子どもを預けるという行為の中で子育て世

代に安心を与えられる事業であることを伝えるため、積極的にキッズワールド、キャンドルナイト、CoCoDe 祭り等に参加し、市民への事業の周知啓発を担っている。

■事業名 (旭川市委託事業)

旭川市母子家庭等日常生活支援事業



■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

【目的】

様々な事由により、一時的に日常生活に支障が生じている場合や生活環境等の激変により、日常生活を営むのに特に大きな支障が生じている場合に、その生活を支援する者を派遣するなどして、母子家庭及び父子家庭の生活の安定を図ることを目的としている。

【事業期間】

平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

【事業内容】

- 1) 依頼時の利用者と家庭生活支援員の生活援助及び子育て支援の連絡調整実施
- 2) 関係機関との情報交換、連携を図るための会議実施
- 3) 月毎に市へ報告及び利用料の申請実施
- 4) 家庭生活支援員資格者の手続き実施

【事業成果・課題】

① 利用者数

利用会員登録 22 名

家庭生活支援員 21 名

子育て支援員 36 名

② 利用状況 154 件 (前年度 111 件)

生活支援 145 件 (前年度 88 件)

子育て支援 9 件 (前年度 23 件)

例年ひとり親の依頼には緩やかに対応でき利用数も多かったが、市から緊急性を要する案件を中心に支援して欲しいとの指導が入り、依頼時には状況、事情の把握を問われ、利用期間も 2～3 か月が限度となり、やや利用しにくい状況になってきている。利用者側からの今まで通り柔軟に対応、援助してほしいとの要望がある旨を行政に伝えたが、対応に変化はない。

30 年度は特に生活支援の利用が多く、生活環境を整えることができず、子どもに対してネグレクトになる傾向がある。中には不登校児や不登園児等もあり十分な食事も与えてもらえず異臭がするような生活圏の中におり健康面も心配になる。また発達障害児のかかりつけ小児科医、精神科医、児童相談所、発達支援センターの先生、行政等のケース会議にも出席をもとめられることも多くなった。

どの事業においても親が孤立しないような子育て環境をつくり、そして地域が子育てを担えるよう、少子化と言われる時代にあって頼りにされるような支援でありたい。

■事業名 (旭川市委託事業)

子育て交流活動推進事業実施業務



■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

【目的】

子育ては親だけでなく、地域社会全体の支えが大切ということから、子育てに関する、様々な関係機関や団体などが連携して、保育所や、幼稚園に通っていない児童を家庭において養育している全ての保護者がいつでも子育てについて相談でき、また、保護者同士や子育て経験者等と交流できる環境づくりを行う。



「わんぱくフェスタ」

旭川市内には子育て中の親が自主的に活動する育児サークルや、地域住民で子育てを支援する子育てサロンがあり、そうした団体に対して、活動の際の会場費の補助を行う。

また子育て支援を望む団体・個人が人材バンクに登録し、育児サークルや子育てサロンに託児や、特技等でサポートを行う際の、コーディネートを行い、子育て環境の充実に寄与する。

【事業期間】平成30年4月1日～31年3月31日

【事業内容・事業成果】

1) 登録している育児サークルに対する支援を地域子育て支援センターと連携して行う。

会場費補助 244件、 128,364円

2) 育児サークル合同イベント(わんぱくフェスティバル)の実施。

日程 H30年9月4日(火) 10:00～11:30

会場 旭川市市民活動交流センター CoCoDe

参加者 子ども 67名 大人 123名

3) 育児サークルへの支援員の派遣

派遣数 45件

派遣者数 130名

4) 育児サークル事業説明会の実施 2回

会場 旭川市市民活動交流センター CoCoDe

日程 ① H30年5月15日(火) 10:00～12:00 20名

② H30年9月27日(木) 10:00～12:00 12名

5) 子育てサロンへの支援

会場費補助 70件、 83,100円

派遣数 1件

派遣者数 1名

6) 子育てサロン意見交換会の実施 2回

会場 旭川市市民活動交流センター CoCoDe

日程 ① H30年5月21日(月) 10:00～11:30 28名

② H30年11月14日(水) 10:00～11:30 22名

7) その他の支援

子育て支援センター、児童センター、留守家庭児童会、市立保育所、保健所等

派遣数 93件

派遣者数 213件

8) 子育て人材バンクの登録 97名

9) 育児サークル・子育てサロンの支援に関するニーズ調査及び分析

サークルは保育園や満3歳で幼稚園入園可能なこともあり、会員不足で解散、休会が出はじめている。子育て中の親にとって、現にあるサークル活動が魅力あるものとなる様、子育て支援センターの先生方の協力を得ながら支援をしていく。また、子育てサロン等も運営費不足などの現状もあるので、より一層旭川市から補助を得られるよう支援を押し量りながら継続につなげていきたい。

■事業名 (社団法人北海道医師会)

北海道に在住する医師を対象とした緊急時保育支援事業



■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

【目的】

子育て中の医師の仕事と家庭を両立させるためのサポートで、利用者が緊急に支援を必要とするとき、北海道医師会が利用者に代わって旭川 NPO サポートセンターに依頼するもので、女性医師等の働く環境を整えることによりキャリアの継続に寄与することを目的とする。

【事業期間】平成30年4月1日～平成31年3月31日

【事業内容・事業成果】

1) 事業内容は上川中部こども緊急さぽねっとに準ずる。

登録医師 19名

利用者数 5名

利用件数 55件

2) 登録にあたっては、ファミリーサポートセンターの登録時に情報提供し、入会登録を促す。旭川市においてはファミリーサポートセンター事業が充実しており、助成制度もある。加えて、北海道医師会からの利用券制度もあることから、女性医師等にとってはキャリア継続できる環境が整えられつつある。

■事業名

産前産後ケア



■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

【目的】

赤ちゃんとの対面で喜び、楽しいはずの出産が、出産後に情緒不安定、不眠、不安、ふさぎ込む、注意散漫、イライラ等、産後うつになっていく母親が少なからずいる。核家族化が進み、希薄な人間関係の中、母親自身の経験不足などで出産・育児が辛いものになってきている。育児支援を実施している中で、産前産後、不安でいっぱいの母親への寄り添う支援の必要性を感じてきた。子育て経験者である支援者だからできるお手伝いによって、そうした母親への自信回復に寄与することを目的とする。

【事業期間】平成30年4月1日～平成31年3月31日

妊娠・出産により精神的に不安定になりやすい時期の家事をサポートする事業。掃除・洗濯・買い物・調理の下準備等を緊急さぼねっとの登録スタッフの中から、産前産後ケア事業に登録した方が訪問している。

スタッフ 13名
依頼件数 47件
時間数 47.5時間

転勤族の方や、親がいても仕事をしているなど昔のように頼れる人も少なく、スタッフは感謝されている。また、里帰り出産時の依頼もあることから今後は受け入れを考えていかなければならない状況になってきている。

■事業名（中頓別町まちづくり協議会委託事業）

NPO 法人設立支援



■協力事業

【目的】

農林水産省の補助を受けて平成27年度から平成30年度まで農村集落活性化のための取り組みを進めてきており、補助事業が終了するまでに任意団体を法人化して、事業の具現化を目指す。

【事業期間】

6月5日（火）～11月9日（金）

【事業内容】

すでに2017年度に「NPO 法人とは？」というタイトルで法人設立のメリット・デメリット等についてセミナーを開催している。2018年度はNPO 法人設立に向けて団体の合意形成や事業づくりの為のワークショップ、具体的な段取り等についてセミナーを実施した。また事業終了後も法人設立までメール等でフォローアップを実施している。

- 1) 日時：6月5日（火）18:30～20:30 場所：コミュニティかふえトントン
内容：ふるさと回帰支援センターの佐藤隆氏による講演「移住者支援成功への道のり」
- 2) 日時：7月12日（木）18:30～20:30 場所：コミュニティかふえトントン
内容：法人化を目指した合意形成の為のワークショップ
- 3) 日時：8月29日（水）18:30～20:30 場所：コミュニティかふえトントン
内容：北方建築総合研究所の松村博文氏による講演「まちまかない会社をつくろう」
- 4) 日時：9月25日（火）18:30～20:30 場所：コミュニティかふえトントン
内容：団体設立、資金調達の方法について座学と法人設立の為に5W1Hについて整理した。
- 5) 日時：11月9日（金）18:30～20:30 場所：中頓別役場小会議室
内容：ひろしまねNPOセンター理事長の安藤周治氏による「住民がつくる『もう一つの役場』～ここで暮らしたいとの思いをつなぐ～

■事業名（幌延町主催）

幌延で暮らし続けるために～NPO 法人研修会



■協力事業

【目的】

2019 年度に幌延町は将来の人口減少対策として、住民自治意識の醸成及び地域おこし協力隊員等移住者の定住化を目的として、幌延町に事業所を置く NPO 団体の設立を企画している。その準備段階として NPO 法人研修会を実施した。

【事業期間】

11 月 10 日（土）14:00～16:00

【事業内容】

ひろしまね NPO センター理事長の安藤周治氏による『ここで暮らし続けたい』の思いをつなぐ～地域の暮らしを守り 創る 次の時代へ～』をテーマとした講演会の実施。

- 1) 会 場 幌延深地層研究センター国際交流施設多目的ホール
- 2) 参加者 20 名

■事業名

J R 宗谷線車内販売



■旭川市・旭川物産協会協力事業

【目的】

J R 宗谷線で地域の活性化を目指し、地元の特産品の車内販売を通じて、障がい者などの雇用の場の多様化や J R の利用促進、魅力アップを図る。

【事業期間】

平成 30 年 4 月 14 日、5 月 19 日、6 月 9 日、6 月 23 日、7 月 7 日、7 月 22 日、8 月 5 日、8 月 25 日
9 月 15 日、9 月 24 日、10 月 6 日、10 月 20 日、11 月 17 日、12 月 1 日、12 月 15 日、平成 31 年 1 月 14 日、2 月 16 日、3 月 9 日、3 月 23 日、計 19 回実施

【事業内容】

J R 宗谷線の特急サロベツ 1 号 13 : 35 分発に乗車して、和寒～美深間において、特産品の販売を実施し美深で降車。復路はサロベツ 4 号 15 : 27 分発に乗車し、美深～和寒間で特産品を販売。

- 1) 参加団体：旭川 N P O サポートセンター・旭川ひだまりの会

■事業名

地域 E S D 拠点事業



■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

【目的】

学校現場・社会教育の現場では、さまざまな主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。そうした現場の ESD を支援・推進する役割を担います。

【事業期間】平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

■事業名（実行委員会主催事業）

陽の当たらなかつた女性作曲家たち・旭川ピアノコンサート



■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター 協賛

【目的】

音楽の力により違いのある全ての人々が平等に社会に受け入れられていくソーシャル・インクルージョンの展開を目指す。またジェンダーと音楽をつなぐを目的に、過去、男性作曲家たちが世で称賛される中、女性であるがゆえになかなか認められなかつた曲を、ブタペスト在住のピアニストが紹介していった。



【事業期間】

平成 30 年 8 月 1 日（水）16:30～20:00

【事業内容】

- 第 1 部 16:30～17:15 「0歳児からの親子で楽しむピアノコンサート」 0才児～親子・障がい児・者
第 2 部 18:30～20:00 「陽の当たらなかつた女性作曲家のためのピアノコンサート」 一般市民
1. 会場) 旭川市市民活動交流センターホール
 2. 参加者) 第 1 部 70 名、第 2 部 60 名、夕食交流タイム 42 名
 3. 出演者) 石本裕子氏

■事業名（中央大学社会科学研究所主催）

中央大学 公開講演会 多様化する家族

婚活・卒婚・同性婚・・・どうなる？わたしたちの家族



■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター共催

【目的】

婚活、卒婚、同性婚など、近年家族のあり方が多様化しています。高まる離婚率、本人の思いと親との葛藤、仕事と子育ての重い負担、自由へのあこがれなど、新聞の人生相談、当事者支援の活動、女性の電話相談、そして調査研究から何が見えているか、第一線で活躍している 3 人が語りつくします。

【事業期間】

平成 31 年 3 月 21 日（木）13:30～15:30

【事業内容】

1. 会場) 旭川市市民活動交流センターホール
2. 参加者) 90 名
3. 講師) 山田昌弘 婚活と恋愛結婚の衰退ーヴァーチャル恋愛の時代へ
広岡守穂 夫婦の良い関係を考える
神谷悠介 LGBT とパートナーシップ

■事業名 (Panasonic NPO サポートファンド助成事業)

NPO 法人大雪山自然学校 組織基盤強化事業における伴走支援業務の受託

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

【目的】

Panasonic NPO サポートファンドの助成により、NPO 法人大雪山自然学校が組織基盤強化事業を行うにあたり、平成 29 年 1 月から外部支援者としてコンサルティング業務を行ってきた。平成 30 年度は、外部理事関係団体の協力を得ながら、前年に策定したファンドレイジング戦略や人材育成に関する取り組みを具体的に実施してきた。

新規事業によるスタッフの大幅増員や、夏季事業におけるスタッフ不足により体制が不安定ではあったが、伴走支援においては寄付プログラムの必要性や意義、団体の目的や活動の魅力についてあらためて問いかける機会を多く設定することを意識した。寄付募集については、目標額には

達しなかったが、全国各地に支援者がいるという肯定感が得られたこと、通年雇用にこだわらず、多様なキャリアステップの構築や提案が可能な活動・組織を目指すという方向性を認識できたことは、組織基盤強化の成果と言える。

【事業期間】平成 31 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

【事業内容】

1) 基盤強化事業における伴走支援

月 2～3 回の団体訪問を行い、前年度から継続している①寄付金を募る広報力と信頼力の向上、②NPO 会計の能力向上、③スタッフが生き生きと働く現場づくり、という 3 つの基盤強化メニューのうち主に①と②についての情報提供や、事業形成・実施にあたってのサポートを行った。



寄付募集を目的に作成した
ホームページ